

- 1 当事業の目的
- 1) 五十嵐威暢氏制作原画のルーチェ・アルテ作品を通じたパブリックアート普及の重要性の訴求。
 - 2) 駅利用者がルーチェ・アルテ作品を通じて芸術に親しむことによって、社会モラルが高まる環境の創出
 - 3) 北斗市および道南エリアの観光資源開発と地域の活性化に貢献
- 2 設置場所
- 北海道新幹線新函館北斗駅2階自由通路改札前（北海道北斗市市渡）
- 3 完成時期
- 2016年3月上旬予定
- 4 題名
- 「ムクムク 水と光と大地に捧げる詩」
- 5 規模
- 作品の端から端：幅 約16m、壁面高さ：3,050ミリ、床面から壁面下まで：3,075ミリ（ガラス数：420ピース、約85色を46パネルで構成、使用LED数：4,322個※5台合計）
- 6 原画制作
- 北海道出身・在住の彫刻家・デザイナー、五十嵐威暢氏が原画制作、制作監修
- 7 作品について
- 大沼国定公園を中心に広がる北海道道南の豊かな自然は、清らかな水と光が溢れる大地の様子に象徴されています。山の存在感と湖面の輝きと花の彩と樹木のざわめきが一体となって、人の心に未来と希望と元気を運んで来るように、手吹きガラスを使った新しい光の造形（ルーチェ・アルテ Luce Arte）として、この作品を制作しました。（五十嵐威暢氏・談）
- 8 ルーチェ・アルテ制作
- クレアール熱海ゆがわら工房（所在地:静岡県熱海市泉230-1）で8名の職人が制作。
- 9 原画作者プロフィール

五十嵐 威暢（いがらし・たけのぶ）

彫刻家・デザイナー、1944年北海道滝川市生まれ。

1968年多摩美術大学デザイン科卒業後、渡米。カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)大学院修士課程修了。1970年イガラシステュディオを設立。1975年より1年間UCLAの専任講師を務める。アクソノメトリック図法によるアルファベット作品を発表、世界的に注目される。また国内外の多くのVI計画を手がける。1980年代には、プロダクトデザインの分野にも進出。ニューヨーク近代美術館のグラフィック、プロダクトを制作。代表作に、同館のためにデザインした立体的数字によるカレンダーがある。その後、国際グラフィック連盟（AGI）会員となり89年まで6年間理事を務める。1994年ロサンゼルスへ本拠を移して彫刻家へ転身。2005年、故郷滝川市のプロジェクトを機に帰国、日本各地のパブリックアートを制作し続けている。

後世の育成にも積極的に関わり、千葉大学、カリフォルニア大学（UCLA）で教鞭を、多摩美術大学美術学部二部（後の造形表現学部）の創設に参加。日本初のコンピューターによるデザイン教育の基礎作りに参画、初代デザイン科学科長を務めた。

代表作はニューヨーク近代美術館をはじめ、世界35カ所以上の公立美術館に永久保存され、個人作品集は現在までに、日本・中国・韓国・ドイツ・スイスで出版されている。外務大臣表彰、勝見勝賞、毎日デザイン賞、IFデザイン賞、グッドデザイン賞など多数受賞。

道内の代表作に、滝川市一の坂西公園の高さ21mの鉄の彫刻「愛称：ニョキニョキ」、札幌駅の星の大時計、JRタワーのロゴマーク、滝川市立病院の木の彫刻「cosmos」、望楼NOGUCHI登別のロゴマーク及び彫刻、大通BISSEのエントランスに浮かぶ木の彫刻「sky dancing」、札幌駅パセオ地下広場の幅18mのテラコッタの壁面彫刻「テルミヌスの森」などがある。

2002年には五十嵐アート塾を設立し、地域の人たちと芸術・デザイン・まちづくりを学び合う活動を試み始める。

多摩美術大学学長を満期退任し、2015年4月、同大学名誉教授に就任。

<別紙> 「クレーレ熱海ゆがわら工房」について

当協会は、芸術文化の振興および環境芸術推進活動の一環として、熱海と信楽においてステンドグラス、陶板レリーフ、彫刻、モニュメントなど、パブリックアートの研究や制作支援を行っています。建築家・隈研吾氏の設計・監修によるクレーレ熱海ゆがわら工房は、釉薬研究施設、焼成サンプル室、ステンドグラススタジオ、ショールームなども完備され、数多くのアーティストとのコラボレーションが展開される、第一級のパブリックアートの創造拠点です。

所在地

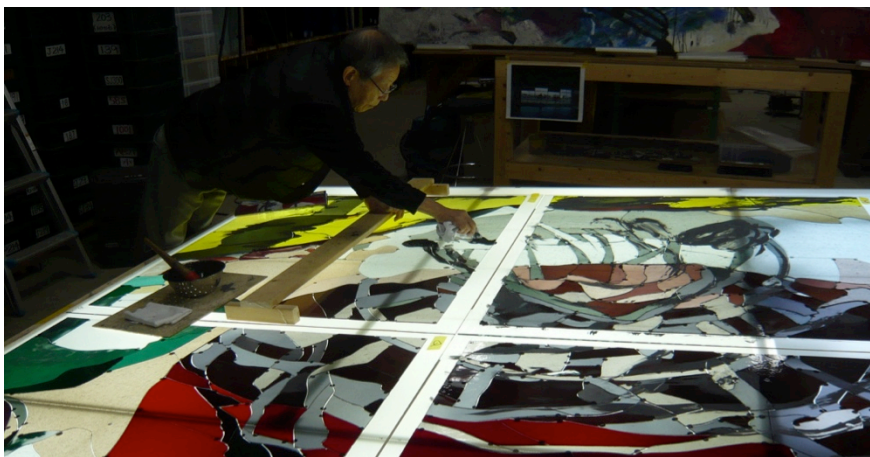
静岡県熱海市泉 230-1



五十嵐威暢氏（右）



宮田亮平氏



野見山暁治氏



大友克洋氏



クレーレ熱海ゆがわら工房の外観



日比野克彦氏